

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

論述、記述

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年と同じ3題であった。全体のページ数は9→8ページとなり、設問数の合計は26問→23問と減少し、論述量の合計も63行→56行と減少したので、全体の分量はやや減少した。また、昨年同様、実験考察問題が主であり、書きにくい長文の論述も多かったため、難易度はそれほど変わらなかった。

出題の特徴と昨年との変更点

論理的思考力を要求される実験考察や長文の論述問題が出題され、論述量が非常に多い。

本年の出題はなかつたが、グラフ作成などの描図がよく出題される。

遺伝子やタンパク質に関する新しい内容の題材がよく出題される。

その他トピックス

大問3題中、2題が遺伝子発現の調節に関する問題であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	論述 記述 選択	遺伝子発現の調節 「ラクトース オペロン」	生物	実験2 制御効率の数値が大きいほど、転写がより強く抑制されていると読む。	標準
[II]	論述 記述 選択	遺伝子発現の調節 「miRNAと siRNA」	生物	問5 miRNAやsiRNAによって、mRNAが分解されたり翻訳段階が抑制されたりする現象をRNA干渉(RNAi)という。	標準
[III]	論述 記述 計算	タンパク質と酵素 代謝	生物	問8 試験管内ではなく細胞内なので、十分な量の基質(PRPP)が存在しないと考える。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

論述問題が非常に多いので、2~5行程度で要領よくまとめる練習をしておく必要がある。

描図やグラフ作成もよく出題されるので、教科書に出てくる重要な図をしっかりと見ておくこと。

難しい実験考察問題が多く出題される。数年分の過去問の研究をしておこう。